

# 年間指導計画の作成で配慮すべき点は何か

## 1 児童の実態に対応する

生活科では、個々の児童が興味・関心を向ける対象や、活動への思いや願い、これまでの体験や既に身に付けている習慣や技能などを事前に把握し、活動への意欲を高め、積極性を引き出すことが必要である。

また、低学年期の児童は、個別の学習から協同的な学習ができるようになる時期にもいる。協同的な学習の体験は、互いの思いや願いを尊重しつつ活動の方向を決め、活動を創り出していくという体験であり、一人一人の児童が社会性を高めていく上で大切な体験である。

こうしたことから、指導計画の作成に当たっては、個別性と協同性の両面にわたる観点から、児童の実態を把握し、個々の児童に対応した指導ができるようにすることが大切である。

### ＜把握したい実態＞

- ・ これまでどのような自然に触れる活動や体験を行ったことがあるか。
- ・ 動物を飼ったり植物を育てたりした体験はあるか。
- ・ 地域の様子や人々への興味や関心の向け方はどうか。
- ・ 生活上必要な習慣や技能などをどの程度身に付けているか。
- ・ 家庭や地域での生活や友人関係の実態はどうか。
- ・ 言葉や絵等による表現力の育ちはどうか。
- ・ 集団による活動の体験をどの程度もつか。
- ・ 学習を進める上で特別な困難はあるか。

など

## 2 地域の環境を生かす

地域は、児童にとって生活の場であり学習の場である。地域の素材や活動の場などを見出す観点から、地域の環境を繰り返し調査し、それらを教材化して最大限に生かすことが重要である。

### ＜調査したい内容＞

- ・ 通学路の安全を守っている人々。
- ・ 地域で生活したり働いたりしている人々。
- ・ 公共の物や場所や施設。
- ・ 身近に見られる動植物や生息し生育する場所。
- ・ 地域で行われる行事。

など

\* 学校も同様の視点で、地域の人や社会、自然などに関連づけて把握する。

\* 作成されている生活科マップや人材マップ、生活科暦等は絶えず見直す

### 3 指導体制を整える

児童の安全確保のために、教師の協力体制を全ての教職員に広げるとともに、保護者や地域の人々、公共施設や関係機関の人々の協力が得られる体制作りを進める。

また、幼児教育から小学校への円滑な接続が求められていることから、改めて近隣の幼稚園や保育園と交流し、協力体制作りにも努める必要がある。その際、交流が互恵的、継続的、計画的に行われるよう配慮することが大切である。

### 4 授業時数を適切に割り振る

- (1) 2年間を見通した計画の中で内容の配列を工夫し、単元を構成する。
  - ・ 必要に応じてまとまった活動の時間をとったり、活動の時期を集中したりするなどの、弾力的な単元構成の工夫も必要である。
  - ・ 常時活動に位置付けた方がより適切だと思われる活動（例えば、動植物の世話）などは、あらかじめ学校の教育活動の中に一定の時間を位置付けておく工夫もあってよい。
- (2) 飼育・栽培活動が動物と植物の双方を2学年にわたって継続的に育てられるよう、授業時数を割り振る。
- (3) 国語科、音楽科、図画工作科など他教科との関連を積極的に図り、指導の効果を高める。特に、第1学年入学当初は、生活科を中心とした合科的な指導を行うなどの工夫をする。